

 株式会社山本工業

令和1年度環境活動レポート

(対象期間: 令和1年5月～令和2年4月)



発行日: 令和2年6月25日



Ⅲ 環境目標とその実績

1 主な環境負荷の実績

当社は主に建築物・構造物の解体工事、産業廃棄物処理などを中心とした事業活動を行っており、環境負荷は表1の通りです。

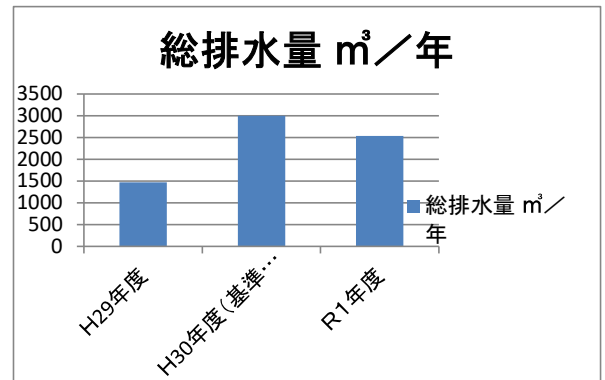
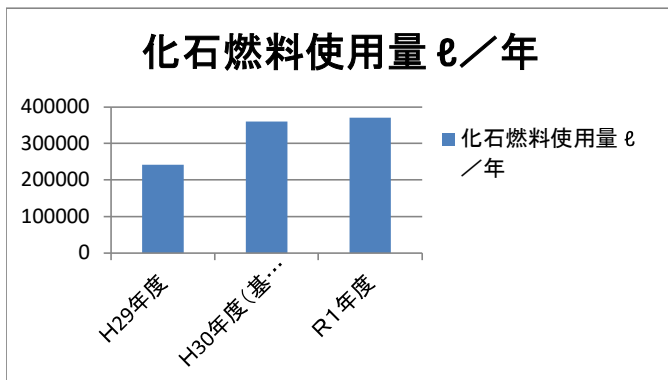
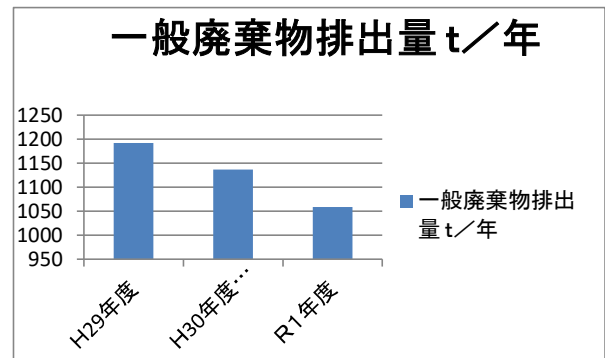
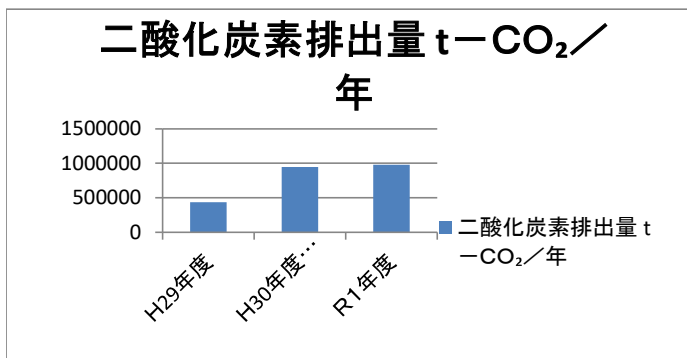
二酸化炭素排出量については、工事現場での重機使用、中間処理場での破碎機使用、産業廃棄物の収集運搬車両等が主なもので、令和1年度は979,832kg-CO₂/年です。

当社の工事現場において、化学物質製品は使用されておりません。

表1、主な環境負荷等の実績

項目	単位	平成29年度	平成30年度 (基準年)	令和1年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	436,217	947,152	979,832
受託した産業廃棄物の処理量	t/年	34,526	57,655	54,172
一般廃棄物排出量	kg/年	1,192	1,137	1,059
化石燃料使用量(ガソリン、軽油他)	ℓ/年	241,816	360,065	371,054
総排水量(水資源投入量)	m ³ /年	1,474	3,000	2,541
購入電力使用量	kwh/年	28,477	26,702	32,147
グリーン購入量(環境物品購入数)	品目数/年	15	18	19
地域貢献活動	件数/年	1	1	2

(注)購入電力の二酸化炭素排出量の算定に使用した排出係数は、0.571kg-CO₂/KWhです。



2 環境目標の設定

当社では、環境目標を表2のとおり設定し、環境負荷の削減等に取り組んでおります。

表2 環境目標(令和1年度～3年度)

コア指標	環境方針	環境目標項目	削減率又は増加率(%)	基準年度	年度毎目標値 (基準年度に対する削減(増加)率)			中長期の目標 令和1年度～3年度
					R1年度	R2年度	R3年度	
二酸化炭素排出量	省エネルギーの推進	電力の削減	削減率(%) kwh	H30年度 26,702	3 25,901	4 25,634	5 25,367	5 25,367
		灯油の削減	削減率(%) L	H30年度 8,721	3 8,459	4 8,372	5 8,285	5 8,285
		LPGの削減	削減率(%) m ³	H30年度 47	3 46	4 45	5 45	5 45
		ガソリンの削減	削減率(%) L	H30年度 40,357	3 39,146	4 38,743	5 38,339	5 38,339
		軽油の削減	削減率(%) L	H30年度 310,987	3 301,657	4 298,548	5 295,438	5 295,438
	二酸化炭素排出量の削減	削減率(%) kgCO ₂	H30年度 947,152	3 918,737	4 909,266	5 899,794	5 899,794	
	廃棄物排出量	一般廃棄物の削減	ごみの削減	削減率(%) t	H30年度 1,137	3 1,103	4 1,092	5 1,080
産業廃棄物の削減(自社分)		最終処分(埋立)量の削減	削減率(%) t	H30年度 0	- 0	- 0	- 0	- 0
総排水量	節水	節水	削減率(%) m ³	H30年度 3,000	3 2,910	4 2,880	5 2,850	5 2,850
化学物質		化学物質の管理推進	削減率(%) kg	H30年度 0	・化学物質の使用にあたっては、適正に管理し、定期的に確認する。			左記と同じ
グリーン購入	グリーン購入の推進	環境に配慮した事務用品等の使用を推進	増加率(%) 品目数	H30年度 18	- 19	- 19	- 19	- 19
		低排ガス型建設機械、収集運搬車両の購入推進	増加率(%) 台	H30年度 4	- 1	- 1	- 1	- 3
受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮		社有車のエコカー購入を推進	増加率(%) 台	H30年度 1	- 1	- 1	- 1	- 3
		処分作業における環境配慮推進	増加率(%) 件数	H30年度 -	産業廃棄物の収集運搬・中間処理業務の実施にあたっては、環境に配慮した作業を実施するよう適切に管理し、定期的に確認する。			左記と同じ
地域貢献	地域貢献活動の推進	清掃活動等	件数	H30年度 1	- 1	- 1	- 1	- 3

購入電力の排出係数は、平成26年度東北電力㈱の実排出係数 **0.571** を使用しました。

目次

I 環境方針

II 組織の概要

III 環境目標とその実績

IV 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容

V 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

VI 代表者による全体評価と見直しの結果

VII 産業廃棄物処理組織の概要

ごあいさつ

当社は創業以来建築物・構造物の取り壊しを主とし営業してまいりました。その中で人手と重機の融合で多芸多才な人材を育成し専門的な知識・技能を身に付け壊す事で地域貢献・人材育成・コンプライアンスを遵守し壁の向こうにある「何か」を真剣に望みもう一歩先の解体専門工事業として歩む努力を誓います。

株式会社山本工業
代表取締役 山本 徳光

I 環境方針

環境理念

株式会社山本工業は、ますます深刻化する環境問題に対し、循環型社会実現のため、産業廃棄物の3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動と共に、分別解体の徹底、リサイクルの推進、技術向上、CSR活動に努めることで、お客様や社会に必要とされ、愛される企業として、全社員が一丸となり、自主的・積極的に環境保全活動に取り組みます。

環境保全への行動指針

- 1、 事業活動全般について、環境に配慮し、以下の活動を具体的に推進し、環境負荷の低減に努め、取り組みます。
 - ① 解体工事においては、環境に配慮した分別解体を徹底し、建設廃棄物の3Rを推進する。
 - ② 解体工事の着手前に、建材や塗材にアスベスト等の含有がないか事前調査を徹底する。
 - ③ 特定建設資材におけるコンクリート・アスファルトのリサイクル、木材のサーマルリサイクルを推進する。
 - ④ エコドライブを推進する。
 - ⑤ 環境配慮型建設機械を使用し、二酸化炭素の排出量を抑制する。
 - ⑥ 電力・化石燃料等の使用に伴う、二酸化炭素の排出量を抑制する。
 - ⑦ 事業全般での節水を通じ、水の使用量を削減する。
 - ⑧ 解体工事の振動・騒音に対し、環境配慮型建設機械を選定し、その低減に努める。
 - ⑨ 解体工事において発生しうる化学物質(アスベスト、PCB他)は、関係法令を遵守し、適正に管理・処理する。
- 2、 事業活動が環境に与える影響を認識し、環境目標を設定して継続的な環境活動を行う。
- 3、 環境に関する法律、自治体の条例及び弊社が同意するその他環境関連要求事項を遵守する。
- 4、 定期的に見直しを実施し、環境経営システムの維持・改善を行う。
- 5、 事務用品のグリーン購入に努める。
- 6、 この環境方針を全職員に周知するとともに、情報の公開を図り、CSR活動に努める。

制定日： 平成28年8月1日

更新日： 令和1年6月12日

株式会社山本工業
代表取締役 山本 徳光

II 組織の概要

1 名称及び代表者名

株式会社山本工業 代表取締役 山本 徳光

2 所在地

		従業員数	延床面積
本社事務所	青森県青森市大字駒込字桐ノ沢110	49名	122.31 m ²
資材倉庫	同上	-名	103.68 m ²
機材倉庫	同上	-名	145.80 m ²
中間処理場	青森県青森市大字小館字亀山121-24	12名	14.80 m ²

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者	常務取締役	山本 仁	TEL:	090-5355-6659
担当者	営業部	村上 裕樹	TEL:	090-6624-9288

4 事業活動の内容

建築物・構造物の解体工事、産業廃棄物の収集運搬及び処分

建設業： ■特定建設業許可

青森県知事許可(特-27) 第12119号 土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業

青森県知事許可(特-28) 第12119号 解体工事業

産廃処理業： ■産業廃棄物処分業許可

許可番号 10822013733 中間処理 破碎 がれき類

■一般廃棄物処理業許可

青市指令廃対第152号

■産業廃棄物収集運搬業許可

許可番号 00200 013733

■特別管理産業廃棄物収集運搬業許可

許可番号 00250 013733 特別管理産業廃棄物の種類 廃石綿等

■古物商許可

許可番号 201010033000号 青森県公安委員会 3644

5 事業の規模

資本金:	2,000	万円
売上高:	15.8	億円 (令和1年度)
産業廃棄物の処分量:	54,172	t/年 (令和1年度)

6 対象範囲(認証・登録範囲)

当社の全活動・全組織を対象範囲とする。

7 事業年度

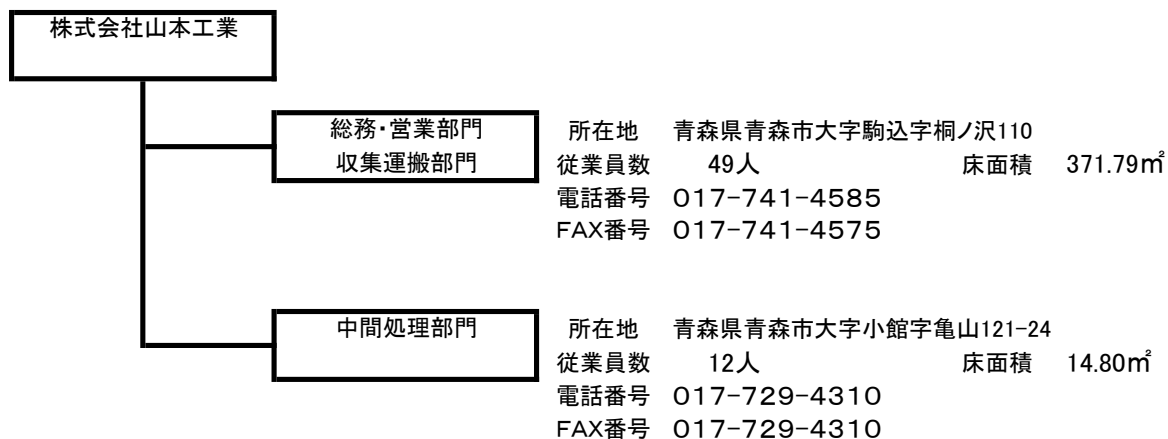
5月～4月

8 環境活動レポートの対象期間(発行日)

令和1年5月～令和2年4月(発行日:令和2年6月25日)

株式会社山本工業組織図

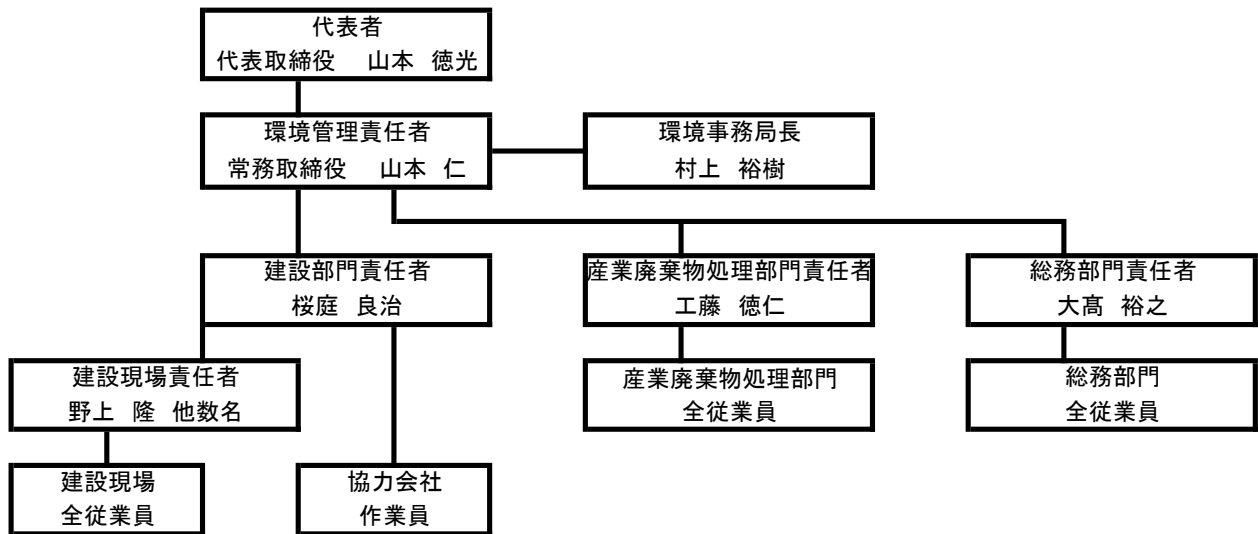
令和2年6月25日現在



EA21実施体制図(令和2年度)

株式会社山本工業

改定日: 令和2年 6月 1日



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者 代表取締役 山本 徳光	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の作成 環境管理責任者を任命 環境経営システムの実施に必要な経営資源を提供 環境保全活動を全従業員へ周知 取り組み状況、運用状況の評価、見直し 各責任者への指示
環境管理責任者 常務取締役 山本 仁	<ul style="list-style-type: none"> 環境への(負荷・取り組み)の自己チェックの承認 環境経営システムの構築、実施、管理状況把握、問題点の是正、指導見直し 環境経営システムの運用状況を代表者へ報告
環境事務局長 村上 裕樹	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システム運用に関する環境管理責任者の補佐 環境経営システム運営に関する全社的事務活動の実施 環境活動レポートの作成(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門責任者 建設 桜庭 良治 産廃処理 工藤 徳仁 総務 大高 裕之	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの実施、維持 環境方針の部内への周知 教育、訓練の実施(必要に応じ、下請・協力会社へ協力要請) 環境活動計画の実施及び状況の報告 問題点の発見、是正、予防処置の実施
建設現場責任者	<ul style="list-style-type: none"> 建設部門責任者、協力会社と連携し、環境目標・活動計画達成のため 率先して活動へ参加
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解、環境目標、活動計画の実施 責任をもって、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、平成30年度の実績値を基準値とした、令和1年度の実績値についての評価結果を報告いたします。

電力の削減、軽油、二酸化炭素排出量の削減については、環境目標を未達成でありました。

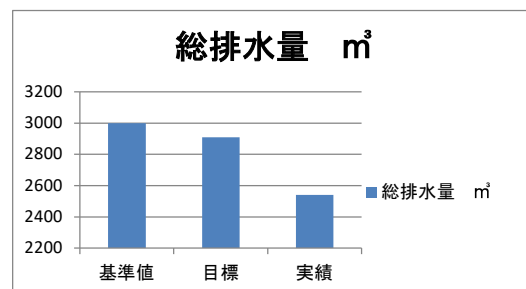
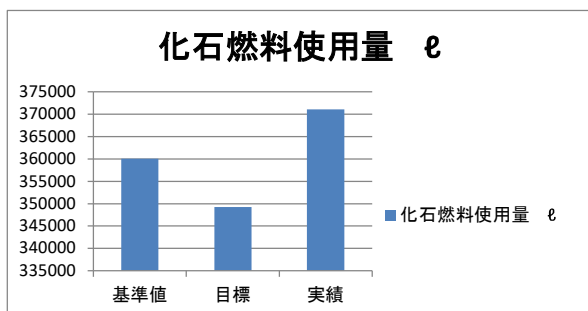
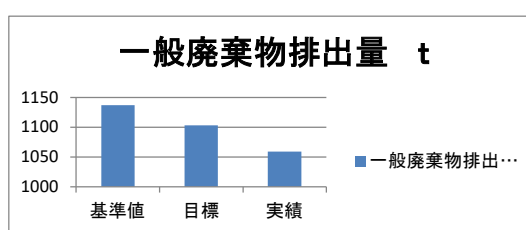
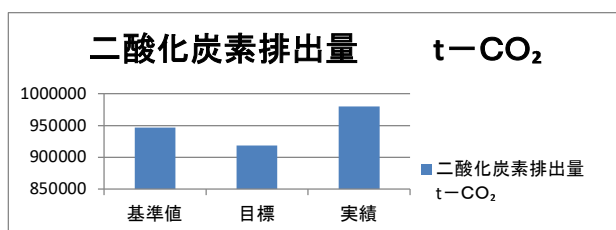
電力について、本社事務所においては削減目標を達成することができたが、今年度は大型の工事受注が増えたことに伴い、工事現場に仮設事務所・休憩所を設置したことによる電力消費が大きい原因と考えられる。

また、軽油についても大型工事の増加に伴い、現場での重機使用、処分場での重機・破砕機使用が増えたために使用量が前年度実績よりも増加しており、比例して二酸化炭素排出量も目標を超える結果となりました。

表3 当該年度の環境目標の達成状況等

コア指標	環境方針	環境目標項目	単位	基準値 H30年度	令和1年度			環境目標の達成状況
					削減(増加)率(%)	目標値	実績値	
二酸化炭素排出量	省エネルギーの推進	電力の削減	kwh	H30年度 26,702	3%削減	25,901	32,147	未達成
		灯油の削減	L	H30年度 8,721	3%削減	8,459	5,798	達成
		LPGの削減	m ³	H30年度 47	3%削減	46	43	達成
		ガソリンの削減	L	H30年度 40,357	3%削減	39,146	38,975	達成
		軽油の削減	L	H30年度 310,987	3%削減	301,657	326,281	未達成
	二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減	kgCO ₂	H30年度 947,152	3%削減	918,737	979,832	未達成
廃棄物排出量	一般廃棄物の削減	ごみの削減	t	H30年度 1,137	3%削減	1,103	1,059	達成
	産業廃棄物の削減(自社分)	最終処分(埋立)量の削減	t	H30年度 0	3%削減	0	0	達成
総排水量	節水	節水	m ³	H30年度 3,000	3%削減	2,910	2,541	達成
化学物質		化学物質の管理推進	kg	H30年度 0	・化学物質を使用する場合は、漏洩等が無いよう適正に管理し、定期的に確認します。			達成
グリーン購入	グリーン購入の推進	環境に配慮した事務用品等の使用を推進	品目数	H30年度 18	-	19	19	達成
受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮		処分作業における環境配慮推進	件数	H30年度 -	・産業廃棄物の収集運搬・中間処理業務の実施にあたっては、環境に配慮した作業を実施するよう適切に管理し、定期的に確認する。			達成
地域貢献	地域貢献活動の推進	清掃活動等	増加率(%) 件数	H30年度 1	-	1	2	達成

購入電力の排出係数は、東北電力株(平成26年度実績 - H27.11.30公表)の実排出係数0.571



環境活動の状況



令和1年7月11日、解体工事業協会による
道路美化活動



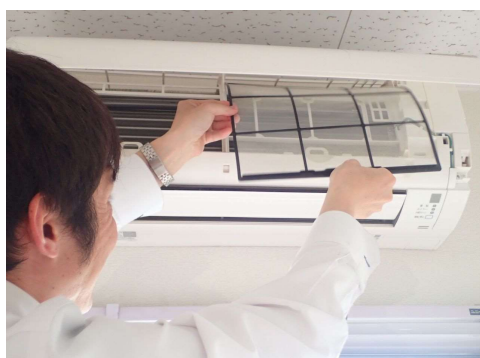
令和1年7月11日、解体工事業協会による
道路美化活動



本社事務所台所換気扇ダクトのフィルター掃除



本社事務所台所換気扇ダクトのフィルター掃除



本社事務所内エアコンフィルター掃除



省エネ活動の掲示

V 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等について一覧表に取りまとめ、遵守状況を確認したところ違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、訴訟について、問題ありません。解体工事現場において、近隣住民のかたから収集運搬車両の振動・騒音に対する苦情がありましたが、速やかに対応し対策を講じた結果、その後苦情はありませんでした。

VI 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21について環境活動への取り組みも4年目となり、従業員の環境保全に対する意識がだいぶ向上していると思います。

また、従業員の化石燃料使用を削減しようという活動努力により、今年度は灯油、ガス、ガソリンで削減目標が達成でき、節水、ごみの削減もあいまって環境負荷削減の効果が見受けられます。

今年度は大型の解体工事受注が増えたことに伴い、工事現場及び処分場において電力、軽油の使用が増え、二酸化炭素の排出量も増える結果となりました。

目標未達成の電力、軽油、二酸化炭素排出量の削減については、次年度は工事受注の減少により工事現場での減少が予想されますが、環境目標の設定方法、環境活動計画等も含め見直しを行い、従業員一人一人が資源の有効活用、節約を心がけるように指示しました。

以上

IV. 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の目標及び取組内容

環境活動計画については、単年度の環境目標に対応した具体的な取組の内容(達成手段)を表4の通り作成した。
 なお、それぞれの計画の責任者と担当者及びスケジュールを定め確実な実行に努めております。

・今年度は通勤車両使用燃料の省エネへの取組により、ガソリンの使用量削減を達成することができました。
 また、社会貢献活動等についても、道路美化活動、ゴミ拾いに参加することができました。次年度も参加への取り組みを積極的に行いたいと思います。

表4 主な環境活動計画の内容

環境方針	環境目標項目	取組内容	実施状況の評価	取組結果	次年度の目標	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素の削減	①事務室、作業所等の照明は、昼休み、残業時等不必要な時は消灯している ②照明の適正管理(エリア別の点灯)を行っている。 ③休日・夜間はOA機器の主電源を切る。 ④空調機器の適温化(冷房・暖房)を徹底している。 ⑤空調機器の定期的なフィルター清掃・交換を行っている。	○	冷暖房設備の温度管理の徹底、クールビズは定着しつつあり、事務所においては環境目標達成につながった。	項目 電力 基準値 26,702kwh 削減率 4%	次年度は、節電、エコドライブ等の取組をさらに強化するとともに、低排ガス型のバックホウに更新し削減目標達成を目指す。
	建設機械等の燃料の二酸化炭素削減	①燃料消費の少ない建設機械や設備機器を選定している(低排ガス型機械等) ②燃料消費の少ない施工方法や作業方法を採用している(工程短縮、運搬経路計画等) ③機械等の作業は、過剰な負荷をかけないようにしている(省エネ運転、アイドルストップ) ④建設機械等は、定期的に自主点検のほか、施工開始前に点検を実施している(自主検査記録等) ⑤運搬車面に過積載が行われないように徹底している。	△	低排ガス型の重機・車両の導入により、削減効果はあったが、工事量の増加に伴い増加する形となった。	項目 軽油 基準値 310,987ℓ 削減率 4%	
	灯油・LPG等の二酸化炭素の削減	①暖房温度(暖房24度程度)の設定管理を徹底している ②冬期における重ね着等服装の工夫(ウォームビズ)をして、暖房の使用を抑える。 ③ブラインドやカーテンの利用等により、熱の出入りを調節している。	○	暖房設備の適正な温度管理ができており、灯油、LPGともに削減することが出来た。	項目 軽油 基準値 298,548ℓ 削減率 4%	
廃棄物排出量削減	廃棄物の発生抑制	①裏紙を使用し、ゴミの発生を抑制する。 ②使い捨て製品(紙コップ、使い捨て容器入り弁当等)の使用や購入を抑制している ③再使用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入している。 ④詰め替え可能な製品の利用や備品等の修理により、製品の長期使用を進めている。 ⑤機器等の故障時には、修理可能かチェックし、可能な限り修理することで長期使用に努めている。	○	再生用品の積極的な使用、裏紙利用等により、ゴミを減らすことが出来た。	項目 一般廃棄物 基準値 1,137t 削減率 4%	次年度も引き続きゴミの分別徹底を行い、使えるものを再利用により削減目標達成を目指す。
	リサイクルの促進	①古紙回収業者に引き取りを依頼している。 ②紙、金属缶、ガラス瓶、プラスチック、電池等について、分別ボックスの適正配置等によりゴミの分別を徹底している。 ③シュレッダーの使用を機密文書等に限る、紙のリサイクルに努めている。	○	ゴミの徹底分別励行により、ゴミの量を減らし、リサイクルへまわすことが出来た。	項目 一般廃棄物 基準値 1,092t 削減率 4%	
	産業廃棄物等の適正処理	①廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を行っている。 ②廃棄物の最終処分先を定期的に、直接確認している。 ③ ④ ⑤	○	産廃処理時は適正にマニフェストを発行し、処理することが出来た。	項目 一般廃棄物 基準値 1,137t 削減率 4%	
総排水量削減	節水	①節水の呼びかけをしている。 ②手洗時、洗い物においては日常的に節水を励行している。 ③水道配管からの漏水がないか定期的に点検・確認している。 ④散水用の水は、排水路等の水や雨水を利用している。 ⑤建設機械等を洗車する場合は、泥等を落としてから行っている。	○	現場においては必要最小限の水使用により、削減をすることができた。	項目 節水 基準値 3,000m ³ 削減率 4%	次年度も引き続き現場、事務所ともに節水を心がけ、削減目標達成を目指す。
	排水処理	①作業方法を見直し、水質汚濁の少ない方法に変更している。 ②排水等の定期点検を行い、適正に管理している。 ③有害物質や有機汚濁物質(生ごみ等)が出来るだけ混入しないようにしている。 ④水質汚濁の少ないプロセスや機器(廃液の回収・再利用等)を採用している。 ⑤	○	工事現場の排水時は定期点検を行い、水質汚濁を防止することが出来た。	項目 節水 基準値 2,880m ³ 削減率 4%	
騒音・振動防止等の取組		①周辺の生活環境に影響の少ない時間帯での施工を行っている。 ②周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工している。 ③低騒音・低振動型建設機械等の導入により、騒音・振動を防止している。 ④騒音のレベルを抑えるために適正な車両整備を行っている。 ⑤騒音・振動防止のため日常的な監視等を実施している。	△	一部工事現場において、車両の振動・騒音に対する苦情がありました。		工事現場内での徐行運転の徹底を行う。
化学物質の管理推進		①有害性の化学物質について、その種類、使用量、保管量、使用場所、保管場所等を把握し、記録・管理している。	○	化学物質の使用はありませんでした。		
グリーン購入	環境に配慮した物品等の購入、使用等	①環境ラベル認定品などを優先的に購入している。 ②再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用している。 ③省エネルギー基準適合品を購入している。 ④ ⑤	○	環境に配慮した再生製品を積極的に購入、使用しました。		次年度も優先的に再生製品の導入を行う。
環境に配慮した施工の推進		①土砂が飛散しないように風向きを考慮する等環境に配慮して施工を行っている。 ②ダンプのタイヤの泥除去のため、場内の道路は砕石(鉄板)を敷設している。 ③土砂の飛散防止に努めている。 ④再生資源の積極的な利用に取り組んでいる。 ⑤ ⑥ ⑦	○	解体工事においては、土砂、粉じんが飛散しないように作業が行われていました。		次年度も現場での土砂、粉じん飛散抑止を徹底し、環境公害を防止する。
環境コミュニケーション・社会貢献・その他		①ゴミ拾い、清掃活動等のボランティア活動の実施。 ② ③ ④ ⑤	○	道路美化活動に参加しゴミ拾いを行いました。		次年度も積極的な参加を行う。

○:評価出来る、△:まずまず評価できる、×:評価できない

受託した産業廃棄物の処理量

令和1年度（R1年5月～R2年4月）

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 t	
収集運搬	コンクリート	/	17,877.5	
	アスファルト		637.3	
	がれき類		59.5	
	ガラス・陶磁器くず		469.3	
	廃プラスチック		254.2	
	金属くず		27.4	
	安定型混合		15.9	
	石綿含有産業廃棄物(安定型)		91.2	
	建設汚泥		0.1	
	紙くず		1.3	
	木くず		767.6	
	繊維くず		36.6	
	廃石膏ボード		386.2	
	管理型混合		17.1	
廃石綿等	32.3			
収集運搬量合計			20,673.5	
中間処理	コンクリート	破砕～再生材	53,105	
	アスファルト	破砕～再生材	1,067	
うち再資源化等	コンクリート	破砕～再生材	53,105	
	アスファルト	破砕～再生材	1,067	
	再資源化等量小計		54,172	
中間処理合計			54,172	
最終処分	なし			
最終処分量合計			0	
中間処理後の産業廃棄物	最終処分	なし		
	再資源化	コンクリート	破砕～再生材	53,105
		アスファルト	破砕～再生材	1,067
		再資源化等量小計		54,172
中間処理後処分量合計			54,172	

VII. 廃棄物処理に係る組織の概要

事業所名		株式会社山本工業 中間処理場							
代表者名		山本 徳光							
所在地		青森県青森市大字小館字亀山121-24							
環境管理責任者		山本 仁							
エコアクション2.1担当者		村上 裕樹							
連絡先		電話	017-741-4585		ファクス	017-741-4575			
		E-mail	murakami@yamamotok.com						
		UCL	http://yamamotok.com						
事業活動の内容		産業廃棄物の収集運搬、中間処理及び再生材の販売							
(令和の1年度規模)	品名	コンクリート	アスファルト						
	収集運搬量 t	17,877	637						
	処分量 t	53,105	1,067						
	製造量 t (再生材)	53,105	1,067						
	最終処分量 t	—	—						
法人設立年月日		昭和63年12月		資本金	20 百万円		売上高	1,580 百万円	
許可の内容	許可名/許可番号	年月日			事業計画・事業の範囲 (事業区分、廃棄物の種類)				
	特定建設業 青森県知事許可 特-27 第12119号	許可	平成27年9月7日		土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業				
		有効	令和2年9月6日						
	特定建設業 青森県知事許可 特-28 第12119号	許可	平成28年11月15日		解体工事業				
		有効	令和5年11月14日						
	産業廃棄物処分業 青森市長許可 第10822013733号	許可	平成30年2月8日		中間処理 破碎 がれき類				
		有効	令和4年12月23日						
	産業廃棄物収集運搬業 青森県知事許可 00200 013733	許可	平成31年2月19日		取り扱う産業廃棄物の種類 燃え殻 汚泥 廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず ゴムくず 金属くず ガラスくず コン クリートくず及び陶磁器くず がれき類 政令第2条第13号廃棄物				
		有効	令和6年2月18日						
	特別産業廃棄物収集運搬業 青森県知事許可 00250 013733	許可	平成31年2月19日		取り扱う特別産業廃棄物の種類 廃石綿等				
有効		令和6年2月18日							
古物商許可 青森県公安委員会許可 第201010033000号	許可	平成26年3月12日		事務機器類他					
	有効	—							
	許可								
	有効								
設備	設備名	能力・産廃の種類	台数	設備名	能力・産廃の種類	台数			
	自走式建設廃材破碎機	KMC300 1,200t/日	1	収運登録 4tダンプ		2			
	〃	KMC350J 1,360t/日	1	収運登録 4tトラック		2			
	小割機	GV210MFX	1	収運登録 10tダンプ		3			
	〃	G-20 JEL111824	1	収運登録 10tトラック		1			
	〃	G-20 EL87634	1	収運登録 アームロール車	脱着装置付コンテナ	3			
	圧砕機 (クラッシャー)	TS-WB1100W	1	収運登録トラック (2~3t)		7			
	〃	OYC1100WX	1	振動篩機	80~40~0	2			
	ブレイカー	TNB-14E 7043	1	ベルトコンベア		3			
	〃	TNB-150 1250	1						
	〃	F22 8759	1						
	油圧ショベル	SK210D Dynaspec	2						
	ホイールローダー	WA320-7	1						

処理方法・処理工程

産業廃棄物中間処理

処理方法・処理工程（がれき類）

